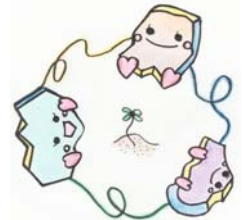


東北復興 PSW にゆうす

新しい年が幕を明けました。昨年9月から新体制で活動している復興支援委員会は、今年も東北と皆さんをつなぎ続けられるよう、引き続き努力してまいります。その活動の一つとして、昨年の福島を皮切りに、今年は復興支援ツアーが3月21・22日に宮城で、4月25・26日に岩手でそれぞれ開催の予定です。震災からまもなく4年が経とうとしています。東北の今をぜひご自分の目で確かめて、復興の現実と未来を感じにいらしてください。その他の取り組みと共に、今後もご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。（東日本大震災復興支援委員会委員：八木）

「復興支縁ツアー in ふくしま」が2014年11月22～23日に開催されました。参加者は28名。関東圏のみならず、福岡、大阪からもご参加いただきました！今回はツアー参加者の声を中心にお届けします。



「復興支縁ツアーin ふくしまを開催して」 メンタルクリニックなごみ 須藤康宏

このたびは多くの方々にご参加いただき、有難うございました。ツアー2日目の企画として、①原子力発電所の事故で復興が大幅に遅れている南相馬市小高区の現状、②発災後、精神科医療機関が壊滅的となった当地に立ち上げた「相馬広域こころのケアセンターなごみ」と「メンタルクリニックなごみ」を視察していただきました。

旧警戒区域に属する南相馬市小高区は、未だにがれき処理が進んでおらず、津波被害に遭った家屋の一部がそのまま残っています。そのような現状を見ていただきたく、今回の内容を企画いたしました。しかし、手配したボランティアが観光ガイドであったことから、その全容を見ていただくことは叶いませんでした。この点につきましては、紙面を借りてお詫び申し上げます。

なお、こころのケアセンターなごみでは、震災後の被災者の状況と、センターの取り組みについてスタッフより説明をいたしました。現時点でも幅広い活動を展開していますが、次第に問題が複雑化してきており、さらなる技術やアプローチが必要であることを実感していただけたのではないかと思います。今後とも、温かいご支援をよろしくお願いいたします。



「東日本大震災東北3県復興支縁ツアーに参加して」 埼玉県支部 塚本哲司

東日本大震災から3年半余りの月日が過ぎた。福島県は、津波の被害に加え原子力発電所事故という追い打ちが続いている。今、被災地は、福島県どうなっているのか。この目で確かめたいと思い、復興支縁ツアーに参加した。

我々参加者を待っていてくれた、福島県支部の皆の表情はいずれも明るく、語られる言葉は力強かった。が、津波が押し寄せた海岸から数キロに渡る多くの平地にはまだ何もない。福島市内の住宅地にも線量計が設置されている。復興の条件に恵まれた人は新しい生活への移行が容易である一方、条件に恵まれない人は復興に取り残されてしまうという「鉤状格差」が生じているという。

精神障害者のみならず多くの人々が、非日常的な状況の中で適応することを求められる生活が今も続いている。被災地で活動している精神保健福祉士も然りであろう。このことを、全国の精神保健福祉士に伝えることが、私の復興支縁活動の第一歩である。

最後に、2日間にわたる充実したツアーを企画していただいた、福島県支部の皆様にご感謝申し上げます。



「感謝」 ふくしま心のケアセンター県中方部センター 松田聡一郎

3.11 から3年8ヶ月が過ぎ、震災が日常化して久しい。日常となっているのは、震災そのものだけでなく、震災に伴う変化も同様である。変化に疲れてしまった人、取り残されている人、あるいはそこからチャンスを受け取っている人。被災地に生きる人々の濃淡を、一言にくみ取ることは困難であることを、私はシンポジストとして伝えようとした。

今回、復興支縁ツアーで日本各地からたくさんの仲間が福島を訪れてくれた。シンポジウムでは、各分野での支援者の働きに対し、真剣に耳を傾け、発言をいただいた。その中で多く聞こえてきたのは、「福島に来てみないと分からなかった」という声である。その言葉は真実であろうし、ツアー全体を通して伝えたかったことでもある。

しかし、何よりも私が嬉しかったのは、貴重な時間を割いて「福島に来る」という決断をしてもらえたことである。日々の業務と同じく、人々の濃淡を知るためには現場に赴く必要があると感じて下さったのだと思う。今改めて、福島に来ていただいたお一人お一人に、感謝を申し上げたい。



全国大会で寄せられた心温まるメッセージ

♡～復興支援活動募金報告～♡

3,121,135 円 (2012年5月7日～2014年12月31日現在)
皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。

- ・ねばり強い取り組みに頭が下がります。できることを探して協力していきます。
- ・一人で悩まないで下さいね。どこかで、誰かが力になってくれると思います。

☆皆さんからのメッセージを募集します☆

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会ウェブサイトにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載いたしません)。お届け先は復興支援本部の事業を引き継ぐ復興支援委員会へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。
E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSWにゆうすについて」とご記入をお願いします。

第14号 2015年1月21日発行

発行: 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

URL: <http://www.japsw.or.jp/>